



日本医療機能評価機構認定病院

# 美山だより



第 15 号  
2011. 6

社団医療法人 啓愛会

## 美 山 病 院

〒023-0132 奥州市水沢区羽田町字水無沢495-2

TEL 0197-24-2141

FAX 0197-24-2144

ホームページ <http://www.keiaikai-miyama.jp/>

## 無菌製剤を開始しています

美山病院薬剤科では平成22年11月より、薬剤科内に無菌的に注射を詰めることのできるクリーンベンチ（無菌操作室）を設置し患者様の注射を無菌的に混注することを開始しました。

薬剤師が配合変化、投与経路、投与期間・時間を確認した後クリーンベンチ内で混注（注射を混ぜる事）をおこなっています。

患者様の体内に投与する薬剤を無菌的に操作し、感染、汚染がおこらないよう最新の技術で安心・安全を提供いたしております。



### 一目次

- 1P ····· 無菌製剤開始しました
- 2P ····· 新人紹介
- 3P~4P ··· 今回の震災対応 その時 その後に

## 《新職員紹介》



所属 1病棟 准看護師  
氏名 天久 菊江

抱負 12年ぶりの病棟勤務で緊張の毎日ですが一生懸命頑張ります。



所属 緩和ケア病棟 看護師  
氏名 吉田 葵子

抱負 一生懸命がんばりますので、皆さん、よろしくお願いします。



所属 2東病棟 准看護師  
氏名 菊池 明美

抱負 優しく、元気に、笑顔で患者様に接していきたいです。



所属 緩和ケア病棟 看護師  
氏名 菊池 徳子

抱負 毎日が自分との闘いですが、自分なりに真心を尽くしたいです。



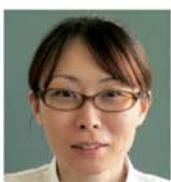
所属 2階西病棟 看護助手  
氏名 高橋 紀恵

抱負 初めて経験することばかりで、とまどいの毎日ですが、努力してまいります。よろしくお願い致します



所属 緩和ケア病棟 看護師  
氏名 森 はや子

抱負 真心を持って患者様と接していきます。  
どうぞ宜しくお願いします。



所属 2階西病棟 看護助手  
氏名 佐藤 純子

抱負 どんどん吸収して行動に移せるよう努力していきたいと思います。



所属 3階西病棟 看護助手  
氏名 高橋 千帆

抱負 日常の勤務に慣れ、早く仕事内容を覚えていきたいです。



所属 緩和ケア病棟 看護師  
氏名 戸巻 礼子

抱負 患者様に安らぎの空間が提供できるように努力していきます。



所属 3階東病棟 看護助手  
氏名 佐藤 雄太郎

抱負 少しでも早く一人前の介護士になれるよう頑張りたいと思います。



## 栄養科の震災対応 その時 その後に

栄養士 高橋 奈々子

地震発生時、栄養科では夕食の準備の最中で、係長の指示のもと、すぐに火を消し身の安全を確保して揺れが収まるのを待ちました。地震直後、水は出ましたが電気・ガスが止まり、急遽非常食での対応となりました。夕食は《お粥・味噌汁・まぐろフレーク缶・グレープゼリー・のり佃煮》という献立でした。災害時の非常食として『アルファ化米・飲料水・缶詰類』など、患者様全員の3日分の食事を備蓄しています。幸いにも次の日にはガスの使用が可能になりましたが、このような状態が長く続いた時のために備えておくことはとても大切だと感じました。

電気・ガス・水道が復旧した後も、物流が滞り、食材が十分に揃わない状態での食事の提供になってしまいました。そんな中、仕入れ業者には本当にお世話になりました。ガソリン不足の中で配達し、最大限に食材を納品していただきました。いくつかの業者さんからは、肉や野菜、飲料水、保存食などを無償提供して頂くこともあり、本当にありがとうございました。また、停電の間、配膳用のエレベーターも止まったため、食事を1人分ずつ手渡しで、3階までの各病棟に上げなければならず、栄養科だけでなく全職員が一丸となって配膳にあたりました。今回の東日本大震災で、日ごろの備えの大切さなど、震災に対する意識が大きく変わったと思います。栄養科でも、備蓄品の見直しや停電時の配膳の仕方など、反省点を活かしてさらに災害対策に力を入れています。災害が起きてても患者様においしい食事を提供することが私達の仕事だと考え、これから業務に活かしていきたいです。



中には紙皿、スプーン、おたま、お粥にかける塩など、必要なものがすべて入っています。

## 大震災後に被災地より受入

3病棟師長 高橋 りつ子

千年に一度と言われた3月11日の未曾有の災害、誰が想像し得たであろうか。ものすごい振動の後ライフラインの断絶、恐怖の中にとり残された状態であった。

震災後の3月15日の夕刻「明日、ハイム・メアーズの入所者様が30人程当病棟へ入院する。」との連絡を受け、やっとの事でベッド削減（4月から96床→60床に変更のため）を行なった病室へ、急遽ベッドメーキングを行った。どのような状態の方が入院されるものか全く手探りの状態でした。

翌16日のお昼頃、当院よりスタッフが迎えに行きメアーズのスタッフと共に来院された。全員カタカナで送信された名前のみを頼りに病室の振り分けを行い、午後2時頃であったが早速食事を頂いて貰いました。食事介助、またトイレ介助とてんてこ舞いであった。準夜で出勤して来たスタッフも訳がわからぬまま業務に当たらなければならない為、臨時に夕食時の為に遅番のスタッフと朝食時の為に早番のスタッフを組み入れた。

現在は状況も落ち着き、メアーズのスタッフの方々に助けられている状態である。3病棟にとっても忘れる事のできない「大災害」であった。

## 患者さんへの安全確保

2 病棟師長 菊地 りょう子

3月11日14時46分。長く強い地震が襲い、つかまつていないと倒れてしまいそうでした。揺れがおさまってからの病棟内の点検、患者様の状態、電源確保、水の蓄えなど特に指示しなくともスタッフはテキパキとこなしていました。総師長へ被害状況を報告し、総師長を中心に看護科での対策会議が行われ、第二の余震を想定した患者様の安全確保について話し合いをしました。暗くならない内にスタッフステーションの近くの部屋とホールに患者様を集約、常に声を掛けられる様にしました。又、エレベーターが使えないのに配膳は手渡しとなるため業務の調整や、夜勤者（深夜）の休憩時期を指示し、これから又来るであろう強い地震に備えました。それぞれスタッフの家も心配しながら、繋がらない携帯電話を握り、懐中電灯と非常電源からの流れるラジオの情報を頼りに、寒くて暗くて怖い一夜が明けたときは、明るいことがこれ程人を安心させるんだと思い知らされました。翌日からは手渡し配膳、最低限度の水を使っての清潔保持、ペットボトルでの水分補給など不自由ながらも、さまざまな工夫がなされ、患者様の不安を和らげました。やがて停まっていた電気が点いて安心した頃にテレビがつき、津波を知った時は、事の大きさにただ唖然とするばかりでした。三陸での被害者を受け入れ、業務も通常に戻った頃、4月7日の夜再度強い地震がありました。夜中だったこともあり、恐怖は倍増し、動悸がしながらも、なんとか病院へと急ぎました。またもや停電で暗くなってしまった病棟では、それでも冷静に対処されておりホッとしました。当院では年2回の避難訓練を行っていますが、火災を想定しての訓練なので、又違う角度からの訓練が必要なのかと思います。数日続く被災に対する備えを改めて知る2ヶ月だったと思いました。

## 休日でも夜間でも患者様が心配

1 病棟師長 佐藤 ゆかり

突然 ガタガタと大きな音と揺れ。最初何が起きたのか分かりませんでした。そしてなかなか収まらない揺れの中、スタッフと共に病室の患者様の見回りをしました「地震おっかねー」と不安を訴える患者様には側に居て話をかけたりし、不安の軽減に努めました。床頭台の上にある洗濯物の箱を床に降ろし、停電となった為輸液ポンプの設定の切替やナースコールが使用できないため病室への訪室を多くし対応しました。夜間の業務に備えて、吸引を必要とする患者様、24時間点滴している患者様、食事を摂取している患者様、経管栄養の患者様と状態別に患者様を集約させて頂きました。患者様の寒さ対策には毛布の追加を行いました。頻回に起こる余震に、夜勤者は病院待機、遅番の時間延長、翌朝の早出等の対応が取られました。また寒さに対して自宅より石油ストーブを持ち込んでもらったり、休日のなか数名のスタッフが心配で駆けつけて来ました。4月7日夜の余震の際も数名のスタッフが病院に駆けつけておむつ交換を行っていました。患者様同士もお互いに「大丈夫だよ」と励ましあっていました。今回の大震災による突然の環境変化の状況の中で、皆で協力して乗り越えようとする連帯感を強く感じました。

誰しも大きな揺れに、経験したことがない長い時間の揺れに、どうなるだろうとか、収束するだろうかと今思い出しても怖い時間を体験しました。病院は地震による大きな建物の被害はありませんでしたが、ライフラインの寸断による問題発生。電気が復旧しても送迎用や暖房用や給湯用の油が足りません。節約1番に入院患者様に安心安全を前提に対応を致しました。職員一丸となって取り組んだこの経験をしっかりと災害対策マニュアルに活かし今後も最善を尽くしたいと思います。 千葉事務部長